

ひろば大代

NO 269

大代公民館

H 13.12.23

韓国料理教室に参加して

八反田 三宅 栄里子

数年前韓国に行った時の事です。韓国の食事を食べて二日目に私の体に異変が起こりました。日頃私の食生活に、ニンニクとか唐辛子に縁がなかったのが、急に変わった食べ物に反応したのでしよう。背中とか腕のあたりの毛穴からエネルギーが噴出するのを感じ、この珍しい体験を忘れる事が出来ませんでした。

それ以来私にとって韓国の食べ物と言えば、元氣印、健康食品です。冷えて鈍い私には、体質改善にもってこいの料理なのかもしれません。それなのに辛い物、苦手の私ゆえに、なかなか手出ない料理でもありました。

今回そんな思いを持って韓国料理教

室に参加させていただきました。材料は日本にある野菜で作れます。日本では例えば具沢山混ぜご飯。一番の違いはニンニクたっぷり唐辛子入りです。名前はビビンバ。今は日本人にも人気メニューですね。ごま油で野菜を炒める事が多く、煮物の多い日本料理とは又、一味違います。

日本料理と韓国料理、それは、国民性の違いを象徴している様でもありません。一番近くて、古い友人でもあるよ



H13, 11, 15 韓国料理講習会

うな国なのに、食文化の違いにいつも驚かされます。

刺激的な食事の後に、親の意見に従い、一度も見た事のない日本の男性に嫁がれたと言う、韓国生まれの講師先生のお話に、又驚かされました。一昔前までは、日本も親には絶対服従、年上の人には礼儀正しくと、需教の教えが行き届いていましたが、韓国では今もそれは健在です。刺激的で体にいい食事と、若い講師の先生の人生観に刺激された楽しい一日でした。

書初め募集!!!
締切り 1月18日

大代の状況

世帯数	247 戸	
人口	男 277 人	女 321 人
	計 598	
高齢化率		
男	38.27%	3 位
女	54.21%	1 位
計	46.82%	1 位
町別高齢化率		
2 位	大屋	48.72%
3 位	山口	48.01%
4 位	祖式	42.27%

平成13年

文化祭の思い出

下市 森守



野良仕事ご苦労様でしたとやさしくささやいているのかな...どうぞ、そうあつてほしいと祈りながら文化祭の思い出と致します。



明るい「明日があるさ」

高山の里大代文化祭



大代町の人口が、十月末でついに六百人を割り、十二年度十三年度は出生者ゼロ、このままの社会情勢が続くと五・六年先には、小学校の入学生徒ゼロが二年度続くことになり、大代町

今年の文化祭は、私達の子供の頃に遠足や修学旅行などで旅先の思い出にと、少ない小遣いの中でやりくりをして買って帰ったかわいいけししに一番と与えてやりたくなり、いけしの展示となりました。それぞれのお家でダンボール箱や棚の奥で、ほこりにまみれて悲しんでいるいけしたちが、今日のひと時を少ない時間だったけどともうれしうに私達に微笑みかけてくれました。昭和45年頃をひもときながら、懐かしい時間を与えてくれてありがとう！そして、駄々をこねる子や淋しそうにして帰って行くいけし達を見送りました。今、その子達はもうしているのだから。また暗い所へ入れられているのだからか...
人形ケースの中で今日も一日お勤め、

の有史以来の出来事が起こると予想されます。人口減少には歯止めがかからない大代町ですが、皆で英知を結集し、挑戦すれば、大代町の明日を創り出す事もできると感じられた二十一世紀はじめの文化祭でした。

* 婦人会会員百四十名の作り出した作品の数々は、質、量とも充実しており、さすが大代婦人会の平素からの活動を物語るものでした。ケナフを楽しむ自然に親しむ、遊び心を大切にした環境ボランティアの市民団体「エコフレンド浦安」の会員として、大代町出身の御手洗朋子さんも活動されており、情報の交換と交流も視野に入れたらどうでしょう。

* 教頭先生をはじめ諸先生、用務員さんを含む大代小学校オールキャストによる「明日があるさ」の合奏は、まさしく大代にも「明日があるさ」「明日を創り出さなければ」と思わせるすば

らしいドラマでした。校長先生は、明日の大代町を支える子供達を育てるべく、観客席の中央でじっと見つめておられた姿が印象的でした。

* 他町からの応援が多かったのも今年の特徴でした。久利町・大森町・桜江町・井田町の皆さんからそれぞれのもち芸を披露していただきました。人口の減少から、心は寂しくなるばかりですが、今後は他町との交流をより深め、盛り上げることも必要と感じました。各集落、各町という枠組みにとらわれていては、現状を維持できなくなることが想像できることから、大きく視野を広げていくことが必要と考えさせられた現象でした。

* 他町の文化祭から

仁摩町大國は、人口も五百四十人と大代町より少ない町ですが、保育園児が十五人と倍以上あり、最近他町からの転入もあつたと紹介されていました。

ここでも、そばの試食販売をされましたが、早々と売切れ宣言をされるほど人気絶頂でした。

瑞穂町から、大変面白い、「ひよっこ

踊り」を地元の人も一緒になって踊りにぎわっていました。

井田町は、農業の盛んな町を象徴することく、野菜・果物など物の多さと良さは、さすがでした。新しくキャベツの栽培も始まり、お好み焼きは早々と売り切れていました。

公民館と小学校の併設の施設で、調

「私の心のふるさと」

廃校の庭に立ちて

原田 万里

♪高山おろしに雲晴れて、八代の健児意気高し、今日のほまれの場所に、いさみたちけり我が選手♪

これは、私が小学生当時に愛唱した母校の応援歌である。複式四学級の小規模校であつた。その頃は近隣四ヶ村〔波積、井田、大家、八代〕の連合運動会が行なわれていた時代であつた。校庭が狭いために周囲の山肌を階段状に切り開き応援席を設けていた。一時は村民総出で鶴ハシ、モッコを駆使して、校

理室には流し台が十数台であり、広々と使えるようになっており、大代町の施設は貧弱に感じられました。

*「明日があるさ」

人生つて素晴らしい

晴れた日もあれば雨もある

どんな時もどんな時も 笑顔で歩き

たい

明日がある

明日がある

明日がある

あるさ



庭の拡張を試みたが、それも実現せず断念した。

昭和十年代はどこもスポーツ熱が盛んで、対外試合にも広く参加していた。私が小学校四年生の時(昭和十三年)、温泉津町松山の石東陸上大会で高等科男子リレーで八代チームが優勝した。その秋には、川本農蚕学校開校記念運動会に出場し、ここでも優勝したのである。その当時の高等科二年の男子

は僅か十名であった。

その中から四名の選手を選んでの挑戦であり、しかも一年に二本の優勝旗を手にする快挙。その当時の校長長谷義太郎氏は、全校生徒に次のような訓示をされた。

「針は小さくても飲めない」努力すれば必ず頂点に立つことが出来る。と廊下に飾られた優勝旗の前に毎日のように立ち、勇気を鼓舞したものである。

やがて学年が進み六年生になった私も選手の仲間入りが許され、当時は個人では手に入らぬスパイクは学校の備品であり、選手が替わる替わる履いて練習した。

当時の対外遠征は、見学や応援者は無く、選手と引率教員が夜明け前に家を出て、日暮れて家路につくという徒歩行であった。井田の鷲峰寺を越えての石東陸上、山路を越え、江の川の渡し船に乗っての川本農蚕学校の運動会、これ等を支えたのは、あの長谷校長の訓示に外ならなかった。

あれから時は流れて二十歳の私は、昭和二十四年助教諭として母校の教壇に立ち、教師の道へとスタートした。

それから四十年間の教職の原点は、長谷校長の「針は小さくても飲めない」という訓示であった。血気旺盛な青年教師時代に担任した児童は、もう還暦を過ぎ、郷里や大都会において、社会の中心的存在であり、その役割を十分に果たしている。



今、この文を寄稿するに当り、改めて母校の地を踏み、冬枯れの草が茂るかつての校庭の地を歩測してみた。横幅が四十五歩、縦幅が六十五歩で山にぶつかり行き詰まった。

腰から下に付着した盗人はぎを払いながら、当時の校庭の狭隘さを改めて確認したのである。

私の母校は町村合併により廃校となり、新生「大代小学校」として躍動しているが、小規模校の域は脱し得ない。その母校の児童に「小さくとも針になるうよ小学生」の言葉を贈り、健やかな成長を念じている。

民生児童委員交代のお知らせ

六年間お世話頂いた柿丸清春さんが十一月三十日の任期満了をもって勇退されました。有難うございました。十二月一日付けで次の方々が委嘱されました。よろしくお願いいたします。

民生児童委員 今田文子、井谷英美、笠井節夫(新)、主任児童委員 佐藤京子、荒本由未(新)、

平成十四年一月行事予定

▼ 一日 (火) 新年挨拶交換会

▼ 十三日 (日) 福祉弁当

▼ 十六日 (水) 書初め展示

▼ 二十三日 (水) 連合自治会

★ お知らせ ★

◎パソコン教室開催！ 公民館

・初心者を対象にしています。

・一月十六日～十九日まで四日間

述べ十二時間

△コース 午後一時半～四時半まで

Bコース 午後七時～十時まで

どのコースも、それぞれ十名が限度です。ので一杯になりましたら、締め切らせて頂きます。